

図4 ワープロ感覚で簡単にホームページ

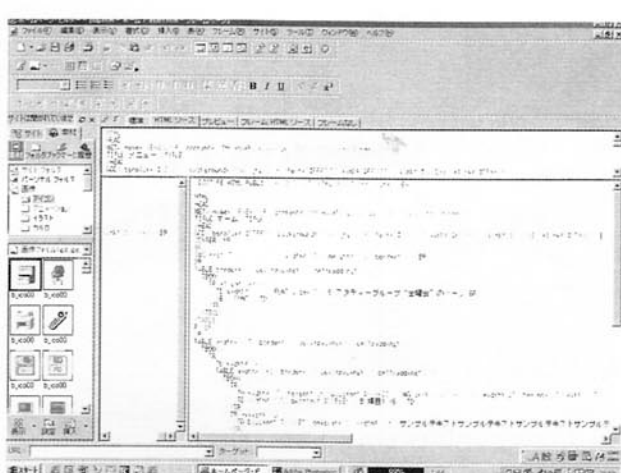


図5 図4はこのようなHTMLで書かれている

のは不可能でした。いまではワープロでもっとも一般的なマイクロソフト社の Word やブラウザの最右翼 Internet Explorer でホームページを簡単に作ることができます。

最近筆者が愛用しているのは IBM 社ホームページビルダー 2001 です (図 4)。

これはあたかもワープロで文章を作っているかのようにしてホームページを作ってしまうソフトです。背景の模様やいろいろなイラスト、ボタン等を適当に選びながら簡単に作ることができます。

作成中のホームページは HTML ソースというタブをクリックすればどのようにホームページの内容が書かれているかわかります (図 5)。

できあがったホームページは付属しているファイル転送ソフトで、プロバイダに簡単にアップロード (プロバイダにホームページを置くこと) することができます。これによって初めていろいろな人があなたのホームページにアクセスできるようになるのです。

自分を表現する手段としてホームページは手ごろで身近な方法の一つです。本屋さんや図書館に行けばたくさん入門書があります。大変やさしく書いてあるものもありますので、ぜひチャレンジしてみてくださいいかがでしょうか？

ホームページは情報の駅だ

さて、ここでホームページを出すことの意味について書いておきます。

自分の出身学校、たとえば小学校にホームページがあったとします。卒業して何十年経ち、校庭にあった桜の木がいまはどうなっているのだろうか？ 校舎や

プールはあのままだろうか？ いまの校長先生は？ 校歌は？ と考えたときにそれをいつでも見られることがホームページの大切なところなのです。また、久しぶりに同窓会を開くときもたいへん役に立ちます。ホームページがあることは、いわゆる“情報のキーステーション”があることになるからです。そこにアクセスすれば何かがあります。学生とき、いつもの溜まり場となっていた喫茶店 (これも古語、死語になりつつありますが) があるようなものです。

あなたのホームページがあれば、きっと誰かが「あいつはどうしているかな？」と思ったときにそこに辿り着けるのです。

すなわち、あなた専用の“情報の駅”を作ることになるのです。その駅は小さなローカル線の駅であっても、急行列車が止まらなくても、1日に2本しか列車が止まらなくてもいい。常時駅長がいなくてもプラットフォームがあり、駅名の看板、ベンチが1つでもあればいい。

そこに辿り着けば、あなたのところにアクセスできるのです。駅があればたとえそれが古いままであっても情報の発信場所、着信場所になるのです。情報は発信し続けることに意味があるのです。

2001年6月現在、歯科医院のホームページはおそらく1,000件を大幅に上回っています。ご自分のホームページに歯科に関する情報を掲載することが必要になってくるでしょう。

教科書的に載せる人、イラストをたくさん入れて楽しくする人、写真や症例データを多く入れる人、あるいは Q&A を載せる人、さまざまでしょう。全国にはその道の達人がいますから、その人のページを参考に